

令和5年9月15日(金)

令和5年度第2回「横浜市地域公共交通会議」

次 第

議題

- ・帰宅支援型乗合タクシー実証実験（港南区永野・永谷地区）について

報告

- ・「こどものみらい共創プラットフォーム」横浜市3区での実証実験概要
- ・戸塚区東俣野町における福祉施設の車両を活用した地域交通の取組について
- ・青葉区・戸塚区の走行環境整備事業
- ・都筑区都田・池辺地区における市営600系統実証実験の利用状況と10月からのダイヤ変更について

◆ 配布資料

- ・座席表
- ・議題資料

令和5年度 第2回「横浜市地域公共交通会議」委員名簿

令和5年10月 現在

職名	氏名
横浜市町内会連合会委員(青葉区連合自治会長会 会長)	関根 宏一
公募市民	小田部 明人
公募市民	宮本 幸司
学識経験者 東京大学大学院 特任教授	中村 文彦
一般乗合旅客自動車運送事業者 (一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長)	齋藤 謙司
一般乗用旅客自動車運送事業者 (神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長)	藤井 嘉一郎
一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事	関上 義明
神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長	稲葉 弘行
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 副議長	高橋 功
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局長	小笠原 征夫
国土交通省関東運輸局自動車交通部 旅客第一課長	神宮 秀樹
国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	平田 伸一
神奈川県警察本部交通部 交通規制課長	佐藤 陽
神奈川県県土整備局都市部 交通企画課長	神永 裕一
(座長) 横浜市都市整備局 都市交通部長	松井 恵太
横浜市道路局 計画調整部長	谷津 毅

令和５年度第２回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和５年９月１５日(金) ９時３０分から１１時３０分まで
場 所	横浜市市庁舎 １８階 みなと６・７
開催形態	公開(傍聴：１名)
議 題	・帰宅支援型乗合タクシー実証実験（港南区永野・永谷地区）について
報 告	・「こどものみらい共創プラットフォーム」横浜市３区での実証実験概要 ・戸塚区東俣野町における福祉施設の車両を活用した地域交通の取組について ・戸塚・青葉区の走行環境整備事業 ・都筑区都田・池辺地区における市営 600 系統実証実験の利用状況と 10 月からのダイヤ変更について
議 事	(※本議事概要内では敬称略) 【議題】 帰宅支援型乗合タクシー実証実験（港南区永野・永谷地区）について ■神奈川県警察本部 交通規制課長（代理） ご意見 ①この地区の中に路線バスの運行経路が多くあるが、本事業で示された停留所はそれとは別という認識でよろしいか。 →事務局 回答 ①既存の停留所は避けて設置している。 ■神奈川県バス協会 乗合部部長（代理） ご意見 ①本事業地域の南北、東西にはそれぞれバス路線があるが、昨年の実証実験では、バス利用者の減少は見られなかった。 ②今年度の実証実験では、予約を必要としない駅からの区域運行になるが、本格運行になったとき運送法４条許可でできるものなのか。 →国土交通省関東運輸局自動車交通部 旅客第一課長（代理） 回答 ②朝便は路線定期、それ以外は区域運行になるということだが、運送法 21 条許可の基準では、区域運行、路線定期などの態様は関係なく、乗合事業であれば許可の対象となる。一方、運送法第 4 条許可の区域運行の基準では、「通信施設等を利用して事前予約等に応じた乗合運行の形態となっているものであること。」と定められており、事前予約が必要とされている。 ■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見 ①利用しやすいように、運賃を 400 円から 300 円に下げたということだが、下げたことによって事業採算性確保のために必要な利用人数が増えると思うが、１日何名乗車を目標としているのか。 →事務局 回答 ①目標人数は 30 人としている。この数字は、令和 4 年度に実施したアンケートデータ

を活用し、運賃や利用時間帯等を今年度の計画に近づけて試算している。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

- ①1日の売上が9000円となると思うが、本格運行になったときに事業採算性は確保できるのか。

→事務局 回答

- ①令和5年度の実験では、帰宅に特化した運行方法が地域に受け入れられるのか確認するため、まずは利用してもらうことが重要だと考えている。そのため「予約不要」や「運賃が300円」といった地域要望に最大限答えた運行計画になっている。本格運行に向けては、専用車両及び専用の運転手を用いるのではなく、通常のタクシーを用いることで、運行経費の削減を図るなど、事業者の意見も聞きながら検討していく。また、運賃収入以外の収益確保についても検討していく。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①先ほどの話を確認するが、本事業を本格運行する際は認めないということか。いいものは進めていきたいが、だからといって安易に決定すると問題もあると思う。地域公共交通会議において協議されたものは柔軟に対応できるような運用となっていたようにも思うが。今回の実験で課題が出ると思う。それを踏まえて本格運行を提案する際に、改めて本会議で議論したい。そこで運用の範囲で実施できるものなのか、前例はあるのか等、地域や事業者のためにも法の運用については丁寧に進めてもらいたい。

■公募市民 ご意見

- ①8ページについて、令和4年度の実証実験において、利用登録者105人、目標人数180人だったということだが、該当する地域の対象者は何名だったのか。
②目標に対して、利用登録者が少なく車両を走らせる前の段階から分かっていたと思うが、地域に対して利用促進をどのように図ったか。

→事務局 回答

- ①高齢者の人数については、地区全体の人口は1万5000人であり、そのうち3割の高齢化率であるため、4500人ほどになっている。
②利用促進の取組として、約5000部のチラシを全戸配布し、40箇所の乗降ポイント及び15箇所の駅や町内会の掲示板にチラシを設置した。

■公募市民 ご意見

- ①今年度の実証実験は予約不要であるが、利用登録も不要なのか。
②令和4年度の実証実験では65歳以上と限定しているが、理由はあるのか。

→事務局 回答

- ①利用登録は必要ない。
②令和4年度アンケートの結果より、利用意向のある人の8割が60代以上であったため、昨年度は65歳以上とした。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

	①今年度の目標人数はどこに記載あるか。目標を設定し、目標と結果から比較し検討する必要があると思う。 ②先ほど述べていた、本実証実験の目標人数 30 人の根拠はなにか。 ③目標人数を達成するために、具体的にどのようなことを行うのか。昨年度の周知方法では目標に達しなかった。是非色々な周知方法を試してほしい。 ④4 カ月の実証実験の中で、途中経過の結果から見直していくという発言があったが、見直すたびに本会議で議論する予定はあるか。 ⑤12 ページの「予約抵抗のある地域」について、この地域は予約しない特性があると読めてしまうため、修正をお願いしたい。 →事務局 回答 ①資料には記載していない。 ②令和 4 年度に実施したアンケートデータを活用し、運賃や利用時間帯等を今年度の計画に近づけて試算している。具体的には、住宅地から駅の便については、アンケートで乗合タクシーを「利用する」と回答し、住まいの町内会が停留所付近であり、「許容できる運賃」が 300 円以上であり、「利用したい時間帯」が自宅を 10 時台に出発と回答している、すべての世代、と条件を絞ったところ一日あたり約 8 人となった。令和 4 年度のアンケート結果に対する利用実績の比率は 4 割であり、その補正を加えたところ、一日あたり約 3 人となる。駅から住宅地の便については、乗合タクシーを「利用する」と回答し、「許容できる運賃」が 300 円以上であり、「利用したい時間帯」が上永谷駅を 10 時から 16 時台に出発すると回答している、すべての世代、と条件を絞ったところ一日あたり約 60 人となった。そこに先ほどの比率の 4 割を補正し、一日あたり約 24 人となる。2 つの合計から 30 人とした。 ③全戸にチラシを配布し、取組の周知を行う。年齢層が高い方が集まる会議等に参加し説明する。また、地域の意見も聞いて、より効果的な周知方法探っていきたいと考えている。運行し人数が至らない場合は、無料体験乗車会等開催しながら利用促進を図っていきたい。 ④運行計画の変更について、本会議にかけられるほどの大きな変更は考えていない。今年度の実験終了後、アンケートや利用者へのヒアリング等を行い、来年度以降に反映させていきたい。 ⑤承知した。 ■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見 ①資料に目標人数を記載してください。 →事務局 回答 ①承知した。 ■公募市民 ご意見 ①事業者として、目標人数 30 人で採算はとれるのか。 →事業者 回答 ①昨年度の結果から、実施方法を見直したことから、まずはどのくらいの需要がある
--	---

のか把握し、そのうえで採算性について検討していきたい。

【報告】

・「こどものみらい共創プラットフォーム」横浜市3区での実証実験概要

■公募市民 ご意見

- ①こどもの移動支援は非常に大事だと思う。
- ②対象とする習い事とは、学習塾も含んでいるのか。学習塾に対応するためには、資料内運行時間で対応可能なのか。

→◆hab 株式会社 回答

- ②学習塾も含んでいる。ただ、遅くまでやっている学習塾になると需要は減ってくると思う。今回の実証実験で需要把握を行い、需要あれば対応していく。

■横浜市町内会連合会委員 ご意見

- ①横浜市が持続可能な発展をしていくために、若い世代が入ってくることは重要であり、そのためにこの事業は大切だと思う。
- ②本事業の運行エリアは3エリアだと思うが、他の地域でも習い事をしているこどもは多く、今後市域全体に拡げていく構想はあるか。

→◆hab 株式会社 回答

- ②横浜市全体に拡げていきたいと考えている。特に港北区では多く声をもらっている。習い事が集中している日吉周辺など、まだまだカバーできていないエリアが多い。そのためにも、実証実験で足りないところ、サービスとして不完全のところを洗い出していき、課題を見つけることが重要だと思う。

■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見

- ①実証実験の対象として、区以外の制限はないのか。広い範囲を対象とした場合、最適ルートを通っても高くなってしまわないのか。

→◆hab 株式会社 回答

- ①需要の把握と観点から、区域全体でリクエストは取りたいと思っている。しかし、実際に運行する場合は、事業採算性や相乗り率の兼ね合いから、選定することになるとしている。今後のために需要把握は大切だと考え、募集は受ける形をとりたい。

・戸塚区東俣野町における福祉施設の車両を活用した地域交通の取組について

■公募市民 ご意見

- ①資料の中に横浜市が運行継続に必要な支援とあるが、これは財政支援を指すのか。

→◆事務局 回答

- ①運行をしていく中で発生した相談対応や関係者調整のほか、財政的支援も含めて検討を進めていきたいと考えている。

■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見

- ①財政的支援とは具体的に何か。

→◆事務局 回答

①運転手の人件費は払えないが、車両代、燃料費、保険料等の支援を検討していきたい。

■横浜市都市整備局 都市交通部長 ご意見

①市としては、白ナンバーを積極的に実施していくということではない。既存のバスを含んだ緑ナンバーでも中々手が届かない場所について、白ナンバー輸送について可能性があるものについて支援していく。本事業も中々バスも走っておらず、タクシーも流しで中々走らない地域である。そういった地区で、地域貢献、ボランティアについて話があった際、市としても一緒に進めていきたい。具体的な財政支援については今後もう少し検討を進めていく。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

①市全体としてどうしていくのかという議論と、その中で、このケースはこれといった考え方で進めほしい。事業者が大変な状況だったり、意欲的な方々がいたりする中で、制度設計の見直しをしてほしい。

→◆事務局回答

①現在、横浜市全体として今後の地域交通をどうしていくのか考えている。これまでは地域交通サポートは自主自立の考えの基、交通事業者に運行してもらっているが、実際は中々採算性が厳しい状況の中で、それでも地域公共機関という使命で維持してもらっている現状がある。今後の制度設計を考えるうえで、以前の取組を含めた制度になるようにしていきたい。

・青葉区・戸塚区の走行環境整備事業

■神奈川県警察本部 交通規制課長（代理） ご意見

①青葉区について、バスベイを設置して、自転車走行環境を整備するという説明あったが、現在の交通規制では歩道上を自転車が通っていいという交通規制になっており、この区間だけは車道を通すという考え方か。管轄警察署と調整をしっかりと行ってほしい。

②戸塚区については、交差点改良した時に横断歩道が長くなる区間が出てくるが、具体的にバスターミナル内の計画はあるか。早めに管轄警察署を通して、交通規制課まで連絡してほしい。戸塚区では歩行者の横断時間を確保する対策をしている。そのため、交差点をいじると全体に影響がでる。

→◆事務局 ご意見

①23 ページで示すとおり、青葉台小学校からすみよし台の区間は車道を走行する区間となっており、それを延伸する形である。管轄警察署とは調整済みである。

②バスターミナル内で道路工事の予定はない。基本的にはライン工事のみの予定である。また、令和2年度から戸塚署と調整しており、県警本部の方にもすべての工事場所については説明している。引き続き、状況変わることあれば説明するようにする。

■横浜市町内会連合会委員 ご意見

①社会情勢の変化等に対して、前向きに考えていかないといけないと思う。便数も増え

るということで地域全体としては好意的に検討している。再編もほとんどの人が賛同したといえる。ただ、運行を開始した際に多少の意見の違いもでてくると思うが、地域と継続的な話し合いを進めてもらい、地域が持続的に、全世代が便利になっていくものにしてほしい。

→◆事務局 回答

- ①ご意見を踏まえて取組に活かしていきたい。

■公募市民 ご意見

- ①再編に伴って支線が発生すること、ICカードを持っている方には新たな負担はないということだが、高齢者等ICカードを持っていない方への広報はどの程度行うのか。
- ②戸塚区の連節バスについて、戸塚バスセンター行きとドリームハイツ行きで支払い方法が異なるということで、はじめての利用者はかなり混乱すると思う。また通常の大形バスと乗車方法も違う。その案内はどうやっていくのか。

→◆事務局 回答

- ①ICカード及び乗り方について、「戸塚つながるバスニュース」という広報誌を作成し、沿線の地域に回覧している。なお、回覧前には、各地域の定例会に参加し説明も行っている。運行開始前には、再度バスニュースを発行し周知する予定である。
- ②バスポールに案内を表示する。バスの乗り口はバスポールに合わせて停車し、そこから乗ってもらうため大きな混乱はないと考えている。また、乗る際のICカードをかざす行為は先払いもあと払いも変わらないため、案内をすれば混乱を招かないと考えている。

■神奈川県バス協会 乗合部部長（代理） ご意見

- ①従前は、路線ごとに先払いや後払いがありまちまちであった。それを戸塚営業所内では、全路線あと払いに変更した経緯がある。今回の支払い方法は昔の支払い方法に戻ることになる。利用者については、乗務員に丁寧に案内するように教育する。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ①例えば、外にお住まいの方が病院行くため戸塚駅から乗る際に、乗ったことがない、ICカード持っていないパターンが心配。対応によっては遅れに繋がることになる。丁寧な案内をしてほしい。
- ②青葉区の乗継の施設について、椅子を確保することと系統番号が誰にも周知されていないので、それを活かして周知を行ってほしい。
- ③乗継によって、乗継先のバスに着席できなくなると不便と感じてしまう。そのため、高齢の人々に、席を譲る啓発等を行う必要がある。むしろ乗り継いだ方が楽だ、乗継が楽しいと言わせるぐらいの工夫をしてほしい。

・都筑区都田・池辺地区における市営600系統実証実験の利用状況と10月からのダイヤ変更について

	意見なし その他意見 ■東京大学大学院 特任教授 ご意見 ①新しい取組が出てきている中で、市のホームページで持続可能な地域交通の実現に向けた取組があるが、7月段階で更新が止まっている。更新していただき、情報を発信し、市内の他の地域の人がいろんな可能性があることに知ってもらい元気づけることにつなげてほしい。課題があることも承知しているが、それでも前向きに取り組んでいることを発信してほしい。 →◆事務局 回答 ①情報発信は積極的に取り組んでいく。
--	---